

だがしや楽校 @ 石巻市立湊小学校

日時：2011年4月22日（金曜日）9:40～11:15

場所：宮城県石巻市・石巻市立湊小学校

2011年4月22日（金曜日）石巻市の天気：曇り時々雨

【だがしや楽校 @ 石巻市立湊小学校】

宮城県石巻市吉野町1丁目にある石巻市立湊小学校にて“だがしや楽校”が開かれました。

湊小学校では前日（4月21日）湊第二小学校と合同で始業式と入学式が行われました。また、道路を挟んで向かい側にある石巻市立湊幼稚園の入園式も、前日、湊小学校内の図工室で行われました。この日の“だがしや楽校”には、これら2つの小学校と幼稚園の子どもたち約300人が集い、楽しく遊びました。

それでは、“だがしや楽校 @ 石巻市立湊小学校”をご紹介します。

▼パラシュート



ビニールに自由に絵を描いてヒモと重しを付けます。どんな絵を描こうかな～。



片桐さん（東北芸術工科大学）も自ら子どもたちに遊び方を紹介しています。



できたパラシュートを飛ばしてみます。



▼消しゴムはんこでハガキ作り



市販されているはんこ用の消しゴム。東北芸術工科大学のお姉さんたちが、それを使って、いろんな絵柄のはんこを作りました。

子どもたちは気に入った絵柄のはんこで、自分だけの楽しいハガキを作りました。



▼らくがき自由帳

東北芸術工科大学・大学院生のYuさんが子どもたちのために作った立派ならくがき自由帳。筆者（山口）も持ってみました。相当重いです。

子どもたちは思う存分絵を描きました。



ここまでは、図工室での“だがしや楽校”の風景です。
次は体育館に行ってみましょう。

▼なわとび



みんなで飛ぶお子さんもいれば、「一人で飛びたい」というお子さんもいました。
みんな大変上手に飛びます。

▼紙飛行機



いろいろな色の折り紙で紙飛行機を作ります。紙飛行機には、キラキラのシールを貼ったり、絵を描いたりして、楽しさいっぱいです。



▼ジャンケン



オッと、こちらでは“ジャンケン・あっち向いてホイ！”が始まりました。ここでも子どもたちの大きな歓声があがっていました。

ひょっとすると、熱くなっているのは、スタッフのS jさんやお姉さんだったりして・・・。

ご覧のように、大盛り上がりの“だがしや楽校”でした。

子どもたちは思いっきり遊びました。おみせを出したり、子どもたちと遊んだりしたスタッフたちも、いっしょになって楽しんでいました。スタッフの人たちとは、この日初めて会ったばかりなのに、まるでお友だち同士のようにいっしょになって遊ぶことができる“だがしや楽校”ってやっぱり凄いです。素晴らしい“だがしや楽校”でした。

しかし、ここは



同じ体育館内では自衛隊の人たちが作業や打ち合わせをしています。



昇降口を入りますと、正面には仏壇が・・・このあたりでも多くの方が亡くなられたのです。これだけでもショックな風景です。

(写真は焼香する東北芸術工科大学の方々です)

楽しい“だがしや楽校”風景からちょっとでも視線をずらしみますと、壮絶な風景です。

例えば、体育館から外を見ますと、墓地に散乱する数台の車が見えます。学校の隣りは寺院です。これも一応写真に撮りましたが、とてもここに掲載する気にはなりません。

湊小学校をご紹介します。



これは、国土地理院が発表した津波の状況です。赤い部分が津波に見舞われた地域です。湊小学校は青い矢印で示したところです。北上川河口から約1.5kmです。

次に衛星写真をご紹介します。



Yahoo



Google

中央が湊小学校です。左は大震災前の写真。右は大震災後の写真です。このあたりも津波に襲われてしまったことが、この写真でもわかります。

校舎をご紹介します。



Google



左は震災前、学校前の道路から撮影したものです。右はこの日筆者が、左の写真の乗用車が停まっているあたりから、撮影したものです。雨が降り出したため、校庭は泥田のようになっています。きれいな校庭の面影はありません。自衛隊車両などたくさんの車が停まっています。

学校前の風景もをご紹介します。



Google



撮影場所は少し違いますが、同じ方向を撮影しています。左が震災前、右はこの日筆者が撮影したものです。がれきや泥が道路脇にかき集められています。

また、歩道橋の左脇（消防車の右後ろ）に住宅のような建物がありますが、元々ここには建物はなく、左側から流されたものです。この建物の左に見えるクリーム色の建物と奥に見える湊幼

稚園の間を、北上川からの津波で流されました。

反対側（南東側）も見てみましょう。



Google

左側には大量のがれきが積まれています。流された車も見えます。震災前はきれいな道路でしたが・・・。

歩道橋の陰には・・・



Google

流された車がそのまま放置されています。左の震災前の写真には、校庭で運動する子どもたちも写っています。あまりにも大きすぎる変わり様です。

このあたりは、少なくとも建物1階あたりまで水に浸かったようです。人間の背丈の約3倍です。

筆者はこの日初めて被災地に入りましたが、言葉で表現することができません。湊小学校小学校に着く前にも、こんな風景を見ました。



左の写真はJR石巻線です。これでは、とても運転再開できません。

こんな過酷な状況の中に、子どもたちはさらされていたのです。

湊小学校から南南東約1 kmに位置する湊第二小学校はさらに深刻な津波の被害を受け、とても校舎を使える状況にはありません。それで、前日（4月21日）湊小学校と合同で始業式・入学式を行ったのです。

湊幼稚園も同様でしたので、同じく昨日、湊小学校にて入園式を行いました。

しかし、湊小学校は避難所となっています。この日も教室は、避難された人たちが生活していました。このため、本格的な授業は、避難者の人たちの移動が進む連休明けになる、とのことです。

それでは、どうして、ここで“だがしや楽校”を開くことができたのでしょうか。

2011年3月11日午後2時46分18秒、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震が起きました。マグニチュード9.0という超巨大地震であり、日本という国を揺るがす空前絶後・過去に例を見ない大災害となりました。東日本大震災です。

“だがしや楽校だがしや倶楽部”（阿部等さん・山形県鶴岡市）は、被災地の子どもたちが心配となり、心を痛めます。そこで、要らなくなったおもちゃを集め、それを持って被災地の子どもたちを訪問し、“だがしや楽校”を開きながら、そのおもちゃを子どもたちにプレゼントする、という“だがしや楽校慰問隊プロジェクト”を思い立ちます。

そんな折、筆者（山口）が昨年からお世話になっている文部科学省・国立教育政策研究所のKさんから筆者へ「だがしや楽校で支援の動きはありますか？」という問い合わせがありました。そこで筆者はKさんに阿部さんを紹介しました。

その翌日、阿部さんより筆者に「国立教育政策研究所からの支援で、たくさんのおもちゃや絵本などの支援物資をいただくことになりました」という報告がありました。即実行とはよく言いますが、あまりにも急な展開とKさんの実行力に、筆者もビックリしたところです。

そこで阿部さんは、あらためて支援のやり方について再構築し、“だがしや楽校アシストチームプロジェクト”として展開することにしました。

このプロジェクトでは、支援物資の受け入れ・保管・運搬をはじめ活動を展開する上で、鶴岡市や鶴岡市社会福祉協議会など多くの人たちから力強い協力を得ることができました。

さらに“だがしや楽校だがしや倶楽部”は、宮城子どもスマイルサポート・プロジェクト（東日本大震災復興支援市民活動ネットワーク宮城）と連携し、宮城県に於いて、継続的な支援活動を行うことになりました。

さて、湊小学校の避難所のリーダーは鶴岡出身の人でした。その人が、現地の被害の惨状を鶴岡市へ報告しに来られます。これが“だがしや楽校@湊小学校”の発端です。

報告を受け、鶴岡市社会福祉協議会は、現地での支援に入ることを決定しました。

まず“鶴岡災害ボランティアネットワーク”のメンバー・Skさんが現地に入りました。Skさんは湊小学校の佐々木丈二校長へ“だがしや楽校アシストチームプロジェクト”の話をします。佐々木校長は“だがしや楽校”を承知していたこともあり、即刻「だがしや楽校を学校でやっていただきたい」という話になります。

“だがしや楽校だがしや倶楽部”のメンバー・Sjさんも、それに呼応して現地入りし、下準備します。こうして、この日の“だがしや楽校@湊小学校”開催となりました。

“だがしや楽校@湊小学校”のスタッフメンバー及び同行者は次のとおりです。

○鶴岡市：だがしや楽校だがしや倶楽部・・・阿部等さん、Sjさん

○鶴岡市：鶴岡災害ボランティアネットワーク14名、Skさん（コーディネーター）

○宮城県：東北福祉大学・学生6名

スポ・アート宮城にメンバー登録している大学生。

この代表が宮城こどもスマイルサポートプロジェクト代表の阿部さん。

阿部さん（宮城）を阿部等さん（鶴岡）に紹介したのは、宮城県でNPO中間支援などの活動している遠藤さん（筆者もお世話になっている方です）。

○山形市：東北芸術工科大学・・・片桐教授、大学院生3名、卒業生3名

○NHK山形：伊藤アナウンサーらスタッフ3名

“だがしや楽校@湊小学校”では、“だがしや楽校”でいっぱい遊んでくれた子どもたちへ、先にご紹介しましたおもちゃや本などをプレゼントしました。その様子をご紹介します。



子どもたちは真剣に選びます。そして、ますます笑顔になります。



こうして、この日の“だがしや楽校アシストチームプロジェクト：だがしや楽校@湊小学校”は、アツと言う間に終わりました。

最後に、子どもたち、はスタッフの人たちへ感謝の気持ちを込めて御礼の挨拶をしました。



湊小学校の佐々木文二校長は“だがしや楽校@湊小学校”を終えて、筆者のインタビューに「久々に子どもたちの笑い声が聞こえたことが何よりでした。ありがとうございました」と感想を語っていただきました。

さて、楽しく遊んでくれた子どもたち。でも、大震災は、子どもたちの心理面・精神面に対して、どんな影響を及ぼしたのでしょうか。それを知ることが、本当の意味での心のケアにつながります。(筆者は「心のケア」という言葉が簡単に使われていることに危惧しています)

そこで、子どもたちが“らくがき自由帳”に描いた絵を、東北芸術工科大学の人たちと観てみました。

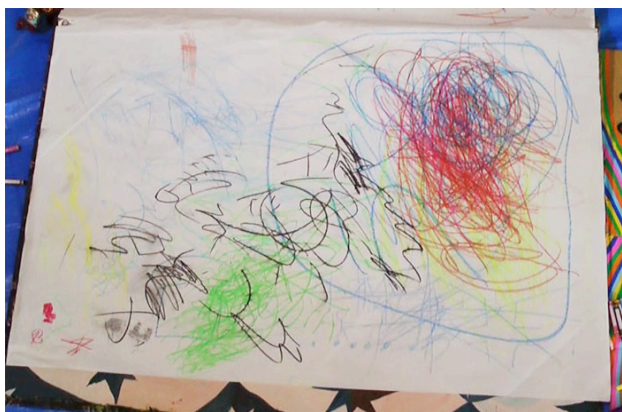


楽しそうな絵が描かれています。また、女の子らしい絵も描かれています。

実は筆者にも、子どもたちに絵を描いてもらうことには不安がありました。絵を描くことで、あの日のことを思い出してしまう(フラッシュバックを起こす)ことになるのではないかと、心配だったからです。フラッシュバックは単に思い出してしまうのではなく、繰り返し思い出す、それによって情緒不安定に陥ってしまうことまで考えられます。

ですから、子どもたちの描く様子に、筆者もホッとしました。

しかし、こんな絵もありました。



左の絵は何を表現しているのでしょうか。
地震、それとも津波・・・。

右の絵、一見すると楽しい絵に見えますが、よく観ますと「たいへん」の文字が見えます。この絵、津波・建物・人間のように見えます。

やはり、子どもたちには目に見えない心の傷があるのでしょうか。

特に心配なのは、子どもたちが自分の思いを伝えることができない、発散することができないことです。それは、周りが、そして大人たちが

大変な状況に陥っていることを理解しているからです。しかし、子どもたちにとって、自分の思いを表現できない、つまり「自分みせ」ができないことほど辛いものはありません。

“らくがき自由帳”は、そんな子どもたちのケアになっているように感じました。



ただ、佐々木校長も語られた通り、間違いなく、子どもたちは元気に楽しく遊びました。筆者はこの事実を大切にしたいと思いました。

そういう意味で、“だがしや楽校@湊小学校”を振り返りますと

- 楽しい空間と周りの空間・風景のあまりにも大きすぎる違いを言葉で表現することは不可能。
- 言葉で表現すること自体、意味がないかもしれない。
- これまでの概念に縛られていたのでは、この違いを理解するのは不可能。
- こういう現実の中で、被災地の子どもたちに元気と笑顔を取り戻すには、“だがしや楽校”の本質から外れるかもしれないが「仕掛けるだがしや楽校」もあり。子どもたちにとってもゼロからのスタートなので・・・。

と感じました。

また、“だがしや楽校@湊小学校”では、子どもたちを「かわいそう」とは思いませんでした。それより、これから長い人生を歩む子どもたちが、しっかり生きていくことができるための支援をすることの方がとても大切であると思うのです。それは、言い換えますと、「自分みせ」ができる子どもたちを育むことです。

“だがしや楽校@湊小学校”が終わった直後、NHK山形・伊藤アナウンサーのインタビューに、東北芸術工科大学の学生さんたち（大学院生・卒業生）は次のように答えていました。（放送

ではカットされましたので、こちらでご紹介します)

◎初めて被災地に入り、まちの風景には驚いたが、“だがしや楽校”を始めたら、それを忘れることができた。子どもたちの反応は良かった。紙飛行機でも、一生懸命になって絵を描いた。

◎子どもたちが思っていた以上に元気で安心した。工作ができた後、嬉しかったのか、すごく笑顔になって喜んでいたので良かった。

◎学校で学んできたことを“だがしや楽校”で活かせることがわかり、良かった。作る楽しさ・子どもの発想がすごく新鮮で、私たちが逆に励まされた感じになった。

◎子どもたちに元気をあげようと思って気合いを入れてきたが、逆に子どもたちのパワーに圧倒された。これからも自分ができることで子どもたちを支えていきたい。

◎津波の被害に遭った子どもたちに対してどのように接したら良いか不安だったが、子どもたちの笑顔に迎えられた。この笑顔が続くと良いな~と思った。

大学院生のYuさんは、この日が2回目の被災地での“だがしや楽校”です。伊藤アナウンサーのインタビューに、Yuさんはつぎのように話しました。

前回は、“だがしや楽校”をしながら子どもたちにおもちゃを配るという取り組みの中に加わりました。それで、その時も“消しゴムはんこでハガキ作り”を準備しました。

でも、現地が「そんな遊びをする場合ではない」という状況だったら、「別のボランティアをした方が良いのではないか」という不安があり、その時は仲間を誘うことはせず、(東北芸術工科大学からは)一人で現地入りしました。

しかし、子どもたちが元気で遊んでくれましたので、今回は気合いを入れて準備しました。(それが“らくがき自由帳”です)

きょうを機会に、仲間たちも「チャンスがあればまた来たい」と言ってくれましたので、これからも続けていきたいです。

そうなんです。Yuさんは(鶴岡・庄内側のメンバーとは一緒だったものの)、単独で現地入りしたようなものです。そのYuさんは、伊藤アナウンサーの「ここに来るには相当な勇気と覚悟が必要だと思いますが・・・」という質問に「一度来れば、あとはいつものように“だがしや楽校”をすることができると思います」と答えられました。

この「いつものように・・・」が“だがしや楽校”では大切なことです。いや“だがしや楽校”だけではなく、今の日本に於いて、最も大切なことかもしれません。いつものように生活する大切さ。

過去に例を見ない大災害に見舞われた日本。これに対しては、過去に例を見ない対応が求められます。今までと同じような対応では、この危機を乗り越えることはできません。

その一方で、「いつものように・・・」も非常に大切なのです。

「いつものように・・・」と「過去に例を見ない対応」・・・この2つの相反することを、ひとつの事としてやることができるか・・・なのです。

それは、この日筆者が観た「楽しい風景」と「壮絶な風景」と同じであります。

企画・制作・編集・文責
山口充夫
だがしや楽校コーディネーター

《補足》

石巻市や南三陸町など被災地に通じる三陸道は朝から午前中を中心に連日大渋滞です。

この日筆者は、午前4時すぎに米沢市を出発し、途中休憩を入れて、午前5時40分に東北芸術工科大学へ到着。準備やミーティングの後、午前6時20分頃東北芸術工科大学を出発。しかし、現地の着いたのは、午前9時40分頃でした。

この大渋滞の要因は様々考えられますが、「支援したい」という気持ちは尊いものの、「安易な支援は控えてほしい」というのが率直な感想です。

今回“だがしや楽校@湊小学校”ができたのは、現地と“だがしや楽校だがしや倶楽部”が明確につながり、現地の受け入れ態勢が出来ていたからです。つまり、現地のニーズと“だがしや楽校だがしや倶楽部”がマッチングできたからです。